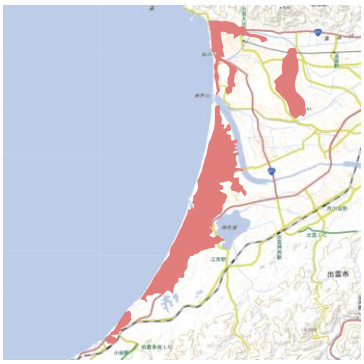
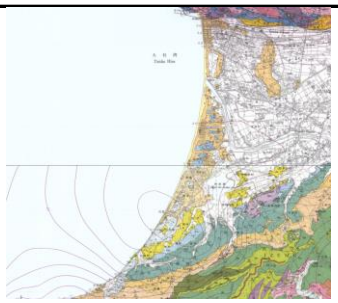
地質サイトカード

カードNo.	B-④-1	通しNo.	34	作成日	2025/3/10

サイト名	出雲砂丘	
基本情報	エリア	出雲平野・宍道湖・中海低地帯　探訪サイト
	区分	☑地質・地形　☑生態　☑文化
	利用価値	☑科学　☑教育　☑観光・ツアー
	所在地	出雲市
	アクセス	山陰道　出雲ICから約8km、約15分。車で近づける神戸川の河口部から観察できる。
	周辺施設	□トイレ　□売店　□飲食店　□駐車場(　　台　) ☑ウォーキングコース　□サイクリングコース □観光施設(　　)
	看板整備	
	留意点	ここでは外園海岸を示したが、稲佐の浜、西浜海岸、岐久海岸を含める場合がある。
保護・保全	法規制・関連団体等	
	保全メモ	海岸浸食が著しく、出雲県整備事務所が土砂管理計画によって海岸保全事業を行っている。
サイトの解説	みどころ	国引き神話の舞台となった海岸とその景観
	地質・地形	大社湾の海岸線は「薗の長浜」として知られ、その内陸側は標高20～40mで松に覆われた丘陵地になっている。この丘陵地は新第三紀の砂岩層を基盤として、南側から北側へ第四紀更新世の最終間氷期より古い時期(10数万年前)の古砂丘から完新世に形成された新砂丘でできている。妙見山(標高56.9m)の南側では時代の異なる三つの風成砂層が見られる。最下位の風成砂層は大山松江軽石(約13万年前に降下)に覆われており、12万年前の最終間氷期より古い時代の氷期に形成されたものとみられる。中位の風成砂層からは三瓶木次軽石(約11万年前に降下)、三瓶雲南軽石、姶良火山灰(約2万9千年前～2万6千年前)が観察され、最終氷期まで及んでいる。上位にあたる差海川の河口付近や都築紡績の背後の斜面では風化が進んだ円礫層を観察することができ、最終間氷期の温暖期の高海面に対応して形成された段丘と考えられている。日本海海岸から約2.2km内陸にある浜山砂丘は、縄文時代の高海水準期に対応する標高5m弱の砂州を覆って形成された。神戸川や西流していた斐伊川によって海岸に運ばれてきた大量の砂が強い西風で吹き上げられ、最近数千年の間にできたものと考えられている。全域が防砂林として保全されている。浜山砂丘の東斜面には湧水があり、簡易水道の水源として1日約300トン汲み上げられている。この湧水は「平成の名水百選」に選定されている。
	歴史・文化生物・生態等	『出雲国風土記』にある八束水臣津野命(やつかみずおみつののみこと)が「持ち引ける綱」は「薗の長浜」なりとして、「志羅紀の三埼」より国を引いたとされる国引き神話の舞台。遠方には、国引きの時、縄かけの杭となった三瓶山を望むことができる。 また、海岸植生は、特定植物群落である「出雲海岸砂丘植生」に指定されている。地元によるハマボウフウの保護活動が行われている。



位置情報	a-4

写真・図等		
参考文献	鹿野和彦ほか(1989) 大社地域の地質	